

カルメル

霊性センターニュース



2022年6月

387号

6月号【教会からの巻頭のことば】

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12章 21節)

使徒的勧告『キリストは生きている』より

イエスは、ガリラヤでなされたように、わたしたちの間を歩き回っておられます。わたしたちの通りを歩かれ、立ち止まって、じっくりと、わたしたちの目をご覧になります。このお方の呼びかけは魅力的で、心を躍らせます。しかし今日、多くの刺激がわたしたちを攻め立て、そのストレスや急速さによって、わたしたちはイエスのまなざしを受け、その呼びかけに耳を傾ける時間となる内的沈黙のための余裕を失ってしまいます。(277)

聖霊は、復活したキリストで心を満たしてくださり、そこからあなたの生活へと泉のように流れ出ます。ですからあなたがこのおかたを受け入れたならば、聖霊はあなたをより深くキリストの心に入れるようにして下さるので、キリストの愛と光と力で、あなたはもっと満たされていくはずですよ。(130)



目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
通信深読お申込みのご案内	24
カルメル会の企画案内	25
東京	26
京都	30
諸所の企画案内	33
郵送お申込みのご案内	38
あとがき	39

心の泉



宇治カルメル会修道院



第三卷

第四十八章 永遠の日と、この世の息苦しさ

6 私たちの心が天にあるように

無限の真理であるあなたは、「宝のあるところにその心もある」(マタイ6・21)と明らかに言われました。私が天を何よりも愛しているなら、喜んで天のことを考えます。しかし、世間を愛しているなら、心は世間の幸せを喜び迎え、世間の不幸を悲しむのです。私が物質的なことを好めば、私はしばしばそのことを想像します。しかし霊を愛しているなら、霊的なことを考えて喜びます。私は自分の愛しているものなら何でも、それについてよく語り、よく聞き、その思いと共に生きています。しかし主よ、あなたへの愛のために、心のなかからすべての被造物を去らせ、本来の欲望と闘い、熱心な心で肉の欲を十字架につける者は幸せです。その人は、澄んだ心をもって、あなたに清い祈りをささげ、内と外からの地上的な束縛を脱ぎ捨てて、いつの日にか天使の群^{むれ}に加わるにふさわしい者とされるからです。》

第四十九章 永遠の生命へのあこがれと、

そのために戦う人に約束された大いなる報い

1 主

《わが主よ、天から永遠の幸福へのあこがれがそそがれるのを感じ、どのようなかげりもない私の光明を仰ぐために、肉体の牢から解き放たれたいと思うなら、あなたの心を広げ、すべての望みをもって、この聖なる靈感を受けなさい。これほどあなたを心にかけて、情け深くあなたを訪れ、強くあなたを励まし、あなたが自分の重みで地上に落ちてしまわないように力強く支えてくださる至上の善である神に、深く感謝しなさい。

このような恵みは、あなたの思いや努力で受けたものではなく、あなたが徳を高めつつあるなか、謙遜に進み、将来の戦いに備え、愛と熱心な意志によって私に仕えるようになるために、天の恵みと神の愛とによってはかったことだからである。

2 自分の欲の畏

子よ、あなたは火が燃えるのをしばしば見ることがあるであろう。炎がのぼる時には、必ず煙がともなう。これと同様に、ある者は天へのあこがれに燃えていても、地上の誘惑への抵抗がにぶることもある。だから、神に乞い求めることも、すべてが、ただ神の栄光のためばかりだとは言えない。天へのあなたの思いと、先にあなたが言ったあこがれも、やはりそうである場合がある。自分の利益と欲に汚されているは、まだ完全に清いものとは言えない。

使徒たちは復活されたイエスが約束された聖霊を聖母とともに待っていました。昨今の世界情勢における戦争や紛争、コロナ禍の中でわたしたちは、聖母月が明ける六月はじめに聖霊降臨の祝日を祝います！



聖霊はわたしたちの心にもっとも貴いたまものを与えてくださいます。それは、神の愛とあわれみに対する深い信頼です。神は聖霊を通して教会に常に新しい恵みの風を送り続けます。「神は常に新しさをもたらします。」

自分自身の深みにおいて探し求めているのは、一体何なのかとわたしたちが問いかけるとき、それはたいていの場合、わたしたちの内でのちを与えようとそこにおられる聖霊ご自身なのです。聖霊はそこにおられます。

友として 主として そこにおられます。

わたしたちが聖なるものとなるようにわたしたちのうちで働いてくださる方。

わたしのうちに住まわれる方。わたしの魂のいのち。

* 『いのりの道』 92p



聖霊と一致することは 贅沢なことではありません。日々の仕事において、

わたしたちのもっている能力や技術は大切です。けれども まずしなければならないのは、わたしたちの内でも働かれる方とかかわりをもつことそれが先決です。それには

まず 聖霊がわたしたちのうちにおられることを信じることです。

そして この信仰の行いを繰り返すことによるのみ

聖霊と親しい真の友情を築いていくことができます。

* 『いのりの道』 100p

あなたの上に 聖霊が降りますように…

できるだけ早く 聖霊はわたしの友と言えるように。

聖霊があなたの光 あなたの師となりますように。

これが わたしの願い 祈り

いつまでも 永遠においても 続ける祈りです。

* 晩年のマリー=エジュエヌ神父の祈り

伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（54）

くのり
九里 彰

今、日本の国は憲法9条を改正し、自衛権としての軍隊を持つことを憲法で保障しようとしている。これは、一般的に言えば、当然の考えだと言える。自分の家族を守るためには、自分の国を守らなくてはならない。自分の国を守れないなら、ウクライナの戦争を見れば明らかなように、自分の家族を守れないのだからと。

現実的に考えれば、北朝鮮や中国やロシアであれ、日本を取り囲むどの国も、指導者がプーチン氏のようなになれば、一方的に日本への侵略を開始することが考えられる。それらの国々だけではない。とんでもない指導者が出れば、どの国もそのような暴挙に出る可能性を秘めている。そうであれば、その時になってからではもう遅い。避難民、犠牲者が出る前に、攻め込まれないよう軍隊を持ち、軍備を増強すべきだと。そのために、憲法を改正すべきだということになる。

だが、キリストは、まさにこのような常識的な考えを打ち破るために現れたのではないだろうか。自分を捕えようと人々が押し寄せて来た時、剣を取ったペトロに対し、「剣を取る者は皆、剣でほろびる」と言われ、無抵抗の内に捕われ、十字架へと向かわれる。まさに非暴力、無抵抗主義そのものである。そして、両の手を左右に広げ、十字架に釘付けられたその無惨な姿は、紛争や戦争で虫けらのように殺されて行く無数の罪のない人々の姿と重なっていると言えないだろうか。

そこには、剣に対し剣で、武力に対し武力で対抗する人間の世界を超えた途方もない神の世界が開かれている。キリストの到来は、まさに神の国の到来を意味しているのだ。

実に、剣を取ること、武力を備えることは、基本的に「恐れ」があるからだろう。相手から危害を加えられる「恐れ」がなければ、何の武器をもたずに、相手に接するはずだからである。アメリカが銃社会と言われ、いまだにそこから脱け出せずにいるのは、自己防衛として銃がどうしても必要だと、国民の大半が考えているからだろう。

そして国同士が、他国からの侵略を恐れ、軍備拡張に余念がない。この恐れがなければ、軍備を持つこと自体が馬鹿馬鹿しいことになる。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (169)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

忍耐の戦い

十字架のヨハネは、自分の不完全さに気づくと、「不遜にも不忍耐をもって」腹を立て、自分自身に対して激怒する霊的な人々について語っています。彼らは、時には「一日で聖人になろうとするほどの不忍耐である」（『暗夜』第1部5,3）と述べています。対照的な例を挙げ、皮肉をまじえてこう言っています。「ある人々は、進歩したいという望みに関して、あまりにも気長で、神も、それほどの忍耐を望まないほどである」（同上）と。すなわち、ほとんどすべての事柄において、人は忍耐に対して、多すぎたり、少なすぎたりで、罪を犯すということです。

聖人の列聖裁判において、忍耐に関連する問いがありました。証人たちは、あらゆる試練での彼の忍耐を、特に牢獄での困窮における忍耐を讃えました。そこでは、牢番が語っているように、「彼は、すべてを大きな忍耐と沈黙をもって忍んでいました。というのも私は一度も彼が自分の運命を嘆いたり、泣いたりしているのを一度も見なかったし、聞かなかったからです。それどころかまったくの平静さと謙遜さと品位をもって、彼は牢獄と孤独を堪えていました」。

しかしながら、三度ほど、その死がすでに近づいていた時、彼が忍耐を欠いたのを見たと言断する証人がいます。この証言は、聖バジリオのバルトロメオです。彼は聖人をよく知っており、聖人が病気である間ずっとウベダにいて、彼の死に立ち会いました。

彼は、ヨハネ修士の「神的な不忍耐」の「不忍耐」を説明しながら、こう言っています。「彼に不足することはなかった病気の間中、私は三回、彼が不忍耐となったのを見ました。

第一は、ある修道者が、湿疹のできものは釘の傷であると言った時、謙遜さを失うことなくでしたが、彼をきつくとがめました。

第二は、イエスのアントニオ神父のいる前で、私たちは、最初（ドゥルエロの改革の最初）はどのようにであったか話してほしいと彼に頼みました。そのようなこと話題にすべきでないと言はれました。というのも、その時には知る必要のないことだったからです。その時、管区長（アントニオ神父）は、少しばかり私たちに話そうとしましたが、それは彼を不機嫌にしました。

(P. 九里訳)

聖霊降臨の主日

(ヨハネ14：15－16、23b－26)

聖霊降臨の祭日は、ご復活の神秘の頂点です。聖霊降臨の日に、聖霊は共同体としていっしょに集まっていた使徒たちの上に降りくだりました。この祭日はまた、聖霊が今も続いている現実であることを示し、日々私たちの生活に接触しています。イエスが使徒たちに現れたとき、二つの贈りものが使徒たちに与えられました。それは、永続的な平和と、罪を赦す権能です。イエスはご自分の働きを続けるように使徒たちに委任し、聖霊と平和の贈りものによって権限を与えました。聖霊は、イエスのメッセージを使徒たちに教え続けます。

聖霊降臨は、教会の誕生日でもあります。この日曜日は、初代教会により聖霊を受けた記念の日です。この祝祭は、私たち皆も初代の弟子たちに注がれたのと同じ霊を持っているという現実を思いださせてくれます。これは、同じ霊が私たちそれぞれに与えられていること、私たちは皆一つの霊により一つの体になるように洗礼を授けられていること、そしてイエスを死から立ち上がらせたのと同じ霊が私たちをも立ち上がらせてくださることを教えています。

今日の祭日は、聖週間からずっとしている数多くの神秘を締めくくっています。イエスの受難、死、復活、昇天は、御父と御子の霊が弟子たちに送られることで頂点に達します。キリストの「神秘」と呼ぶことだけで、私たちの生活の中には神の驚くべき介入があります。今週、教会への聖霊の目的について考えてみましょう。主なる神により送られている目的にそって聖霊は私たちを導き、教えることができます。

宣教の教会の誕生を祝うとき、私たちはそれぞれ聖霊により回復させられ、新たにされるように祈ります。

躊躇しないで、恐れなくて、たびたび出て行って、全ての人のためのものであるこの喜びを大きな声で伝えましょう

とのフランシスコ教皇様が私たちに求められていることを実行できますように。

(Sr. Paulina)

三位一体の主日

(ヨハネ16：12-15)

今日は三位一体の主日。復活節の最後、新約時代の偉大な出来事、聖霊降臨を祝った翌日の月曜日から教会の暦は年間に戻り、次の主日が今日の三位一体の主日となります。年間に戻って何よりも先にお祝いするのが、私たちを愛して下さる神、父と子と聖霊、三位一体の神ということになりますでしょうか。

今日の福音書で語られる場面ですが、最後の晩さんより後の出来事、イエスがその後キドロンの谷の向こうの園で、ユダの裏切りによって、祭司長やファリサイ派の人々の遣わした下役たちや兵士たちに捕らえられる前の出来事です。

イエスは弟子たちに対して「言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。」と言われます。これは弟子たちに対して、世を去られる前、十字架の上で亡くなる前の「惜別のことば」ですが、弟子たちには理解できないと語られます。その様な中で、真理の霊、聖霊について、また父が持つておられるものはすべて、わたしのものである・・・と、父なる神との関わりについても語られます。

父と子と聖霊の三位一体の神。時が満ちて、父なる神は、最愛の御子、「みことば」をマリアの胎に宿らせ、この世界に遣わして下さいました。そしてイエス・キリストが、世を去る前に、真理の霊、愛の霊、聖霊がこの世に来ること、遣わされることをイエス・キリストを通して語られ、神の愛、神の神秘を私たちにあらわして下さいました。

三位一体の神は、弟子たちに真理を悟らせるために導いて下さいます。神の御独り子イエスは、御父から命じられたままに弟子たちに語られ、そして聖霊はイエスの言葉を受けて、弟子たちに告げて理解できるよう、悟ることができるよう、助けて下さいます。

イエスの言葉は、弟子たちに語られている言葉ですが、時代を超え、時を超え、今日私たちに語られます。そしてイエス・聖霊は、私たちが神からのことを神からの真理を私たちが理解し、悟ることができる様に導き、助けて下さいます。

父と子と聖霊の三位一体の神の愛の中、交わりの中で、神の子として生きる私たち。神の働きかけに心を開き、これからも三位一体とともに歩むことができますように。

(Fr. 古川利雅)

キリストの聖体（C）

（ルカ 9：11b-17）

すると、弟子たちに渡しては群衆に配らせた。すべての人が食べて満腹した。

本日はキリストの聖体の祭日です。ミサ聖祭は、キリスト者の生活の中心です。聖体とは、秘跡の中に現存するイエスです。五千人の男たちが奇跡的に養われた話は、主を信じる者を養う霊的な糧である聖体の前触れと言えませぬ。

パンが増える奇跡の福音は、イエスの大きないくつしみとあわれみを示しています。イエスは群衆を愛し、世話をしました。そして群衆は人里離れた場所までイエスを追いかけてその教えに耳を傾けました。イエスは、弟子たちに彼らの世話をさせ、彼らが必要な食べ物を与えて空腹を満たしました。この奇跡は、神から一人ひとりに対するあふれる愛のしるしです。全員が満腹し、パンの屑があり余りました。ミサ聖祭では、イエスはいのちのパンとして私たちを霊的に満たしてくれます。

この世界のどこかで飢えている人がいる限り、ミサ聖祭の祝いはどこか不完全であるといつも覚えておくべきです。自分の子どもたち全員がこの世で幸せに暮らして満腹することをいつも渴望するキリストを、私たちは聖体として拝領します。私たち一人ひとりにいのちのパンとしてやってこられ、私たちに食べられ、かみ砕かれます。イエスはこれほどまでに私たちを愛してくれます。イエスは、飢える人という形で人間生活に来られ、私たちのいのちのパンで養われることを希望しています。他者を愛することを通じて自分たちの心を、他者に奉仕することを通じて自分たちの手を差し出すことで、私たちは聖体の民となり、アレルヤが私たちの持ち歌となります。

ここで、16世紀の教会博士のアピラの聖テレジアの詩（祈り）を思い出します。この詩をぜひ黙想してみましょう。「キリストはあなたしか体を持っていない。あなたの目は、キリストがこの世をいつくしみをもって眺めるための目。あなたの足はキリストが善を行うべく歩くための足。あなたの手はキリストが全世界を祝福するための手。あなたはキリストの手、目、そして体。今、キリストは地上にあなたしか体を持っていない」

(Sr. Paulina)

年間 第13主日

(ルカ9・51-62)

エルサレムへ向かって旅をするイエスに、何人かの弟子が近づいてきて言いました。「あなたがおいでになる所なら、どこへでも従って参ります」。「主よ、まず、父を葬りに行かせてください」。「主よ、あなたに従います。しかし、まず家族にいとまごいに行かせてください」。

イエスはそれぞれに、こう答えられました。「狐には穴があり、空の鳥には巣がある。だが、人の子には枕する所もない」。「死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい。あなたは行って、神の国を言い広めなさい」。「鋤に手をかけてから後ろを顧みる者は、神の国にふさわしくない」。

イエスに従うことが、甘いものではないことが分かります。父を葬りにも行かせてもらえないなんて、厳しすぎるようにも思えます。しかし、今彼らの目の前にいるイエスは、その父をも救う方なのです。亡くなった愛する家族を救ってくださる方を差し置いて、家族のところに行って何になるのでしょうか。イエスと共にいるならば、この方に従うならば、それは、そのまま家族のためにもなるのです。

日本に来ている外国人修道者や宣教師は、しばしば、祖国で家族が臨終のとき帰ることができません。間に合わない、というのもあるでしょうが、多くの場合、今やっている使命を投げ出して帰るわけにはいかない、ということが多いようです。彼らは決して家族を忘れたわけではなく、家族を救ってくださるイエスをまず第一に考えているのです。イエスに従うことが、もっとも大切であることを知っているからです。そして、自分が帰らなくても、イエスが必ず救ってくださると信じて、祈る道を歩むのです。

「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。」(マタイ6・33) イエスは「神の国、神の義そのもの」なのです。

イエスを信じて生きている私たちですが、しばしば、イエスのことよりも、自分のことを優先しようとしてしまいます。この福音に出てくる弟子たちの姿は、私たちの写しです。イエスを最優先していない私たちに、あらためて、イエスを最優先することが救いの確かな道であることを教えようとしています。厳しく感じるかもしれませんが、しかし、イエスを選んでみれば、その正しさが分かると思います。イエス・キリストは決して私たちを裏切ることはありません。

(今泉健 神父)

いのちの言葉 6月

あなたはわたしの主。
あなたのほかにわたしの幸いはありません。

(詩編 16・2)

今月の「いのちの言葉」は、詩編から取られています。詩編には、神ご自身のインスピレーションの賜物である、ダビデ王や他の人々による珠玉の祈りが収められています。それは、どのように神に信頼を持って、立ち返るべきかを教えてくれます。誰もが、これらの祈りに自分の姿を見出すことができます。その言葉は、私たちの魂の琴線を震わせ、疑いや痛み、怒り、苦悩や絶望、希望、賛美、感謝や喜びといった、人の最も深く激しい感情をあまねく表現しています。だからこそ、どの時代、文化の中、どんな人生の場面に生きていようとも、誰もが口にすることができる祈りなのです。

あなたはわたしの主。あなたのほかにわたしの幸いはありません。

詩編 16 編は、多くの霊的著述家に好まれた祈りです。例えば、アヴィラの（イエスの）聖テレジアは「神を持つ者には何一つ不足はありません。その人には神だけで充分なのです」と書いています。コプト正教会の神学者であるアントニオス・フィクリー・ロファエイル司祭は次のように記しています。「これは復活の詩編であり、キリストが夜明けに復活したことから、教会は早い時間にこれを祈る（略）。この詩編は、私たちが永遠に受け継ぐものへの希望を与えてくれるがゆえに、『黄金の言葉、聖書の宝石』という意味で『黄金（の詩編）』と呼ばれている。」
一語一語の意味を考えながら、繰り返し唱えてみましょう。

あなたはわたしの主。あなたのほかにわたしの幸いはありません。

この祈りは、神様が、私たちや造られたものすべてを、ご自分の愛の内に抱いておられることを感じさせてくれます。私たちの過去も現在も、そして未来もすべて、神様の愛の内にあるのだと気づかせてくれます。この神様のうちに、信頼をもって旅路の苦しみに向き合うための力や、人生の暗闇をさらに超えたところに

ある希望に向かって、目を上げることのできる心の落ち着きを、私たちは見つけることができるでしょう。

今月のいのちの言葉は、どのように生きることができるでしょうか。C.D.さんの経験です。「少し前から体調がすぐれず、いろいろな検査を受けることにしました。一つひとつとても時間がかかるものでしたが、ついに自分の病名がパーキンソン病だとわかったとき.....大変なショックを受けました。私はまだ 58 歳なのに、そんなことが、どうして起こるのかと自問しました。私は運動科学とスポーツの教師で、体を動かすことは私の一部なのです。

あまりにも大切なものを失う気がしました。でも、若い頃に『見捨てられたイエスよ、あなたの他に私の幸いはありません』という選択をしたことを思い返しました。

薬のおかげで体調はすぐに改善されましたが、これからどうなっていくのかは分かりません。私は、今の瞬間を生きようと決めました。診断結果を知った後、自然に私の中に一つの歌が生まれ、神様への私の『ハイ』を歌いました。私の魂は平和で満たされました。」

この詩編の言葉は、キアラ・ルービックの魂にも特別なかたちで響いたようです。彼女はこう記しました。「この短い言葉は、神様に信頼を置くよう、私たちを促し、愛そのものでおられる神様と共に生きるよう、助けてくれます。こうして私たちは、ますます神様と一つになり、神様で満たされ、“神の似姿”という私たちの真の姿に向かって、少しずつ近づいていくことができるでしょう。」¹

では、6月は皆でひとつになって、この“愛の告白”を神様に向けて立ち昇らせ、私たちの周りに平和と心の安らぎを広めていくことにしましょう。

レティツィア・マグリ

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1. キアラ・ルービック 2001年7月の「いのちの言葉」より

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2022年5月8日

聖週間の訪問記録—ウクライナ・デー

2022年4月13日 聖週間の水曜日：ポーランド—ウクライナへの旅

跣足カルメル修道会 総長 ミゲル・マルケス神父、OCD



パヴェウとピョートルがポーランドのクラコフの空港で、朝8時30分に到着した私を車で迎えてくれました。そして私たちは、クラコフのウオブゾフスカの女子カルメル修道院に向かいました。そこは、とても快活なシスター達の共同体で、キエフから逃れてきて一か月間滞在しているシスター達とも会い、彼女たちと緊張した熱心な対話の時を持ちました。彼女たちと出会えたことは大きな喜びであり、私たちは、ウクライナ現地の戦禍とポーランドへの避難の過酷な状況について分かち合いました。彼女たちは、今までくぐり抜けてきたすべての事柄を順に話してくれました。

そしてラテン語のミサを捧げてからともに食事をし、それからウクライナ国境近くのポーランドのプシェムィシルのカルメル会修道院に向って出発しました。そこで修道院長クリストファー神父に迎えられ、共同体の修道士たちとしばし談話してから、ウクライナ国境へと出発しました。ピョートル、パヴェウ・パラニェツキ、パヴェウ・フェルコはウクライナのベルディチフの共同体に属し、ウクライナ攻撃が始まってからプシェムィシルでウクライナ支援と車での物資運搬の組織を立ち上げ、ポーランドから週に2回ベルディチフへ食料、兵士用衣服、防弾チョッキ、発電機、夜間用双眼鏡、などを送り届けています。

私たちは国境に到着し、徒歩でウクライナ側に向かいました。パヴェウとピョートルはポーランド側で待機していました。国境の前には、ウクライナからの避難民に食料や衣服等を支援する多くのNGOが世界中から来て活動していました。そこで私たちはスペインのカディスやマラガやバルセロナから自力で来ているスペイン人グループの若者たちに出会いました。彼らは、国境入口付近の通路の傍で他の多くの支援団体とともにテントを張って活動していました。そして、私たちが聖週間の典礼を国境で行うかどうかわかるかどうか尋ね、できれば一緒に祝いたいといいました。

パヴェウと私は比較的容易にポーランドからウクライナ国境を通過できました。ウクライナ側には多くの避難民の家族と子どもたちがポーランドへの避難を待っていました。そして国境の反対側に待っていたのは、7時間かけて私たちを迎えに車を運転してきたラファウ・ミシュコフスキ氏でした。

この地で聞いた挨拶の言葉は、「今晚は/今日は、私たちはウクライナから来ました。」です。今夜、私たちは、ウクライナのモスティスカにある聖母マリアの汚れなき御心の小さき姉妹会に泊まります。この会は、カプチン会のオノラト・コズミンスキ神父により創立されました。こちらのシスター アリナとアディソンはとても親切にもてなしてくださり、夕食、歓迎、部屋は大変よく準備されていました。

(小宮山延子 訳)

糸巻き棒からペンへ(76)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

聖女は、彼女の諸体験（訳注：神秘的体験のこと）が行為の結果ではなく、それらが生み出す影響、すなわち、真の謙遜、内的自由、すべての被造物からの離脱、苦難における剛毅、無欲な愛などを通して、神から来ていることを知っていました。ポルハの聖フランシスコやアルカンタラの聖ペトロやアビラの聖ヨハネたちは、それらが神から来ていることを彼女に保証しました。彼らのとても頼もしい支えによって、彼女の不安は消え去り、すべては祈りへと変わっていきました。「私の災いは終わり、主は、そこから出る力を私にくださいました。すべてのことが、神をよりよく知るために、神を愛するために、神に対する義務を悟るために、過去のことを嘆くために、役立ちました」（『自叙伝』21・10）。

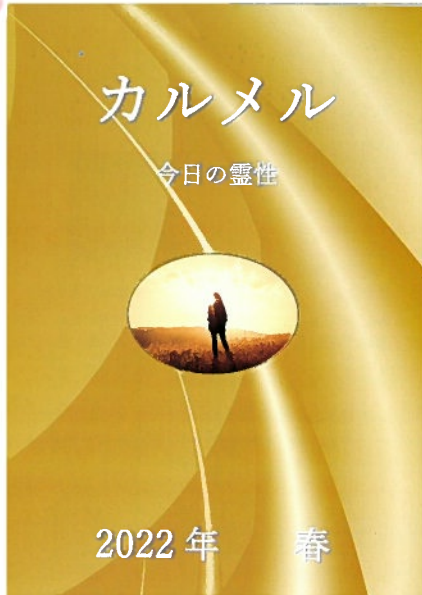
テレジアは、キリストと、またその感情とまったく同一化しているのを感じました。キリストとのこの一致から、教会への熱烈な愛と、反対意見などものともせず、キリストのために働くのに必要な力が湧き上がったのです。彼女は、神秘の高い頂に達すると同時に、神の放浪者、修道院の創立者、祈りの教師、霊的書物の執筆者となりました。彼女において、マルタとマリアは分かちがたく一つとなって歩み出します。けれども、「この目的のために、主はこの世において沢山の恵みをくださいました」（『靈魂の城』第7の住居4,4）。神は、私たちが聖テレジアの模範に従うことによって、祈りを通して、キリストの奉仕に自分をまったくゆだね、キリストが私たちの内で働かれるままになるよう、望まれているのでしよう。

6. 祈りについての教え

聖テレジアの著作は、幾世代にもわたってキリスト教の霊的生活ために刺激となり、糧となってきました。彼女が自分の生涯の歴史（訳者注：『自叙伝』のこと）について語っていた時、すでに申し上げたように、ある時、それを中断し、祈りについての小論を挿入しなければなりませんでした。というのも、そうしなければ、彼女は後に行くことを自分でも理解できなかつたからでしょう。

(P.九里訳)

カルメル誌 新刊案内



2021年 春号 No.384

- | | |
|---|------|
| エディット・シュタインの言葉 抄(一) | 釘宮明美 |
| 道の靈性(続)第一回
キリストの平和と「抑止論」の平和 | 田畑邦治 |
| アピラの聖テレジアの靈的同伴 | 松田浩一 |
| 日々の出来事の中で 神の靈は導
—福者マリー・ユージェヌ神父の司祭縁階と
カルメル入会100周年にあたって | 伊従信子 |
| 風に吹かれて再び(1)—小春日和 | 原 造 |
| あの人が死んだら私には分かるはず | 森 みさ |
| キリストの説かれた 幸いなる道(5) | 九里 彰 |
| 靈的研究会講義録(15)—聖書・祈り・愛について | 奥村一郎 |



2021年 特集号

「向こう岸に渡ろう」

—パンデミック後の選択—

向こう岸に渡ろう

—四旬節：パンデミックの中での過ぎ越し

中川博道

人類は新たに生まれねばならない

九里 彰

神のいやしを行うイエス・キリストをみつめて…

—フランススコ教皇さまの連続講話

「この世界をいやす」についての考察

松田浩一

同じ舟に乗る者たちとして

—『つながり』の靈性を求めて

若松英輔

何も咲かない寒い日—今を問う

大瀬高司

ご案内

1冊 580円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

- お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新刊紹介

ロザリオの祈り ニコラオ・プレシエル神父の講話 II



Thangai Ender
小野崎良子 編

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です(教会憲章 53番)。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

教友社定価 (1,500円+税)

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円 (税込)

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジア・ヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

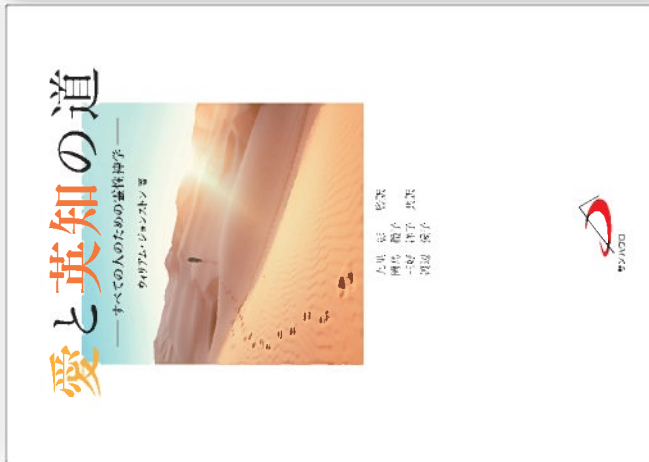
カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じる。また、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

**第2版
好評発売中!**

神と親しく生きる
いのりの道

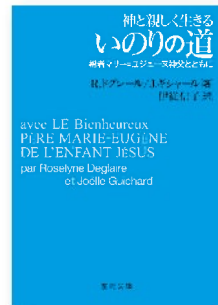
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

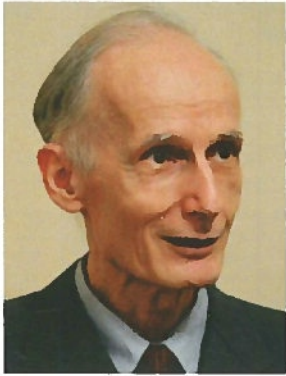
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のもものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

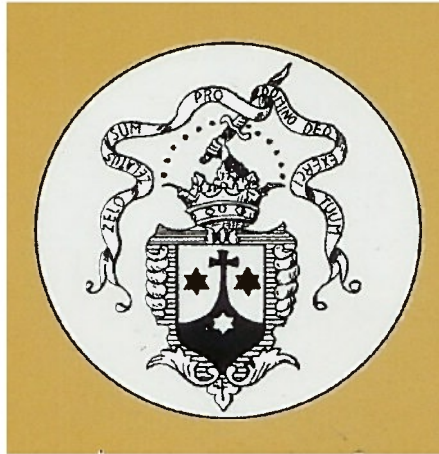
* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2022年~)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】

12月24日(土)~25日(日) 朝食 《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時~日曜日16時) 大瀬高史 神父

6月 4日~ 5日

11月 5日~ 6日

7月16日~17日

2023年

9月 3日~ 4日

2月25日~26日

- ・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日10時~16時・昼食付) カルメル会士

6月15日 7月20日 9月21日

10月26日 11月16日 12月21日

2023年 1月18日 2月15日 3月15日

- ・キリスト教霊性入門(木曜日10時~16時 昼食付) 松田浩一神父

6月2日 7月7日 9月1日

10月13日 11月3日 12月8日

2023年 1月12日 2月2日 3月2日

- ・一泊黙想会 (土曜日16時~日曜日16時) カルメル会士

7月23日~24日

2023年

9月17日~18日

1月14日~15日

11月19日~20日

3月18日~19日

- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日17時~最終日朝食) カルメル会士

8月 1日(月)~10日(水)

8月16日(火)~25日(木)

12月27日(火)~2023年1月 5日(木)

- ・ 召命黙想会(男女) 40歳まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士
11月11日(金)～13日(日)
- ・ カルメル会召命黙想会(男子) 40歳まで (初日16時～最終日16時)
カルメル会士
7月 9日(土)～10日(日) 2023年
10月29日(土)～30日(日) 2月 4日(土)～ 5日(日)
- ・ 特別黙想会(初日20時～最終日16時)Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
11月25日(金)～27日(日)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

一日黙想会

テーマ：『カルメル会聖人に学ぶ黙想会』

*毎月第三水曜日（8月はお休み）

*10時～16時 3,500円（昼食付）

<2022年度開催予定日（2022年4月～2023年3月）>

2022年	4月20日	5月18日	6月15日	7月20日
	9月21日	10月26日	11月16日	12月21日
		(*第4週)		
2023年	1月18日	2月15日	3月15日	

コロナの状況により中止となることもございます。
当面は少人数(定員10名)での開催とさせていただきます。



今泉 健神父



松田浩一神父



ジョニー神父

当修道院司祭が交代で指導いたします

お問合せ・お申込み: 〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

Tel: 03-5706-7355 Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp



★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の霊性を生きることとおして教会に生涯を奉げる道があります。聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証していく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思えます。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2022年 4月 2日（土）～3日（日） 16時～翌日 16時

7月 9日（日）～10（日） //

10月29日（土）～30日（日） //

2023年 2月 4日（土）～5日（日） //

会費：¥5,000（3食付き）

*お問合せ お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL.03-5706-7355 FAX.03-3704-1789

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp





宇治カルメル会 黙想会案内 (2022年度～)

【一般のための黙想】 中川博道神父

1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時)

5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始

6/4～5 9/17～19 (2泊) 10/29～30

2023年

1/14～15 2/18～19

【聖書深読】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

~~5/28~~→6/4 **変更** 6/25 10/8 11/19

2023年

1/21 2/11

【水曜黙想会】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

6/15 7/13 9/21 10/26 11/23

【祈りの学校】 (木曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

6/2 7/7 9/1 10/13 11/3 12/8

【カルメルの靈性】 (午後5時～午後4時) 中川博道神父

幼きテレジア 10/1 (土)～2 (日)

十字架の聖ヨハネ 12/17 (土)～18 (日)

【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時) 一般可

~~7/23 (土)～8/1 (月)~~ 中川博道神父 **中止**

8/4 (木)～13 (土) 松田浩一神父

9/5 (月)～14 (水) 中川博道神父

10/13 (木)～22 (土) 中川博道神父

12/27 (火)～1/5 (木) 中川博道神父

【祭日のミサに参加するために】

*<クリスマス>

12/24～25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

(講話なし 食事つき)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

新企画！

松田浩一神父（カルメル会）による黙想会

「祈りの学校」

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



すべて木曜日 10:00～16:00

5/19 6/2 7/7 9/1 10/13 11/3 12/8

持参するもの・・・筆記用具・ロザリオ

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax 0774-66-1191（聖テレジア修道院（黙想）専用）

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2022年 — 祈りの集いのご案内

イエス様のように祈る

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

- 1月13日 「御旨を行う」（詩編40：9）
2月10日 「私が父の家にいるのは」（ルカ2：49）
3月10日 「イエスも洗礼を受けて祈っておられると」（ルカ3：21）
4月 7日* 「イエスはひざまずいてこう祈られた。父よ、
御心なら、この杯を」（ルカ22：42）
5月12日 「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます」（マタイ11：25）
6月 9日 「イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた」
（ルカ6：12）
7月14日 「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します」
（ヨハネ11：41）
8月 休み
9月 8日 「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」（ルカ23：46）
10月13日 「イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて」（ルカ22：19）
11月10日 「イエスは天を仰いで言われた。父よ・・・」（ヨハネ17：1）
12月 8日 「天におられる、私たちの父よ・・・」（マタイ6：9）



予約は前日の16：00まで

・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
名古屋入門 B	6/26(日) 9:30-17:00	Fr 植栗	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 050-7108-7410 ngosdn@gmail.
フォローアップ	7/3(日) 9:30-17:00	同上	シャルトル聖パウロ修道 女会九段修道院(九段北)	来間(くるま) 裕美子※ 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo. co.jp
名古屋入門 C	7/10(日) 9:30-17:00	同上	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 050-7108-7410 ngosdn@gmail.
宝塚 フォローアップ	7/15(金)17:00- 18(月祝)16:00	同上	女子御受難会修道院 (宝塚市売布山手)	西村優子 090-8480-2661 西村不在時 野 真理子 090-6758-3369
フォローアップ 新 I	7/17(日) 9:30-17:00	サダナ チーム	援助修道会リヒト宣教会 (市ヶ谷)*ミサはなし、椅子での黙想	来間(くるま) 裕美子※
サダナ I	7/21(木)17:30- 24(日)16:00	Fr 植栗	汚れなきマリア修道会・ 町田黙想の家(町田市)	同上
札幌 フォローアップ	8/25(木)9:30- 26(金)18:00	同上	札幌カトリックセンター (札幌市中央区)	本間攝子 080-3260-1864 本間不在時 山崎有紀 090-4720-2157
札幌 I & アドバンス	8/27(土)9:30- 28(日)18:00	同上	同上	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナ I を終えていること。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14:00～16:00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2022年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は教区よりの指示により、当分の間中止となりました。再開については、再度紙面にてお知らせ致します。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき . . . つぶやき . . .

ウクライナへの軍事侵攻が始まって3か月を過ぎていきます。ウクライナからの毎日流れてくる凄惨なニュース、さまざまなレベルで広がっていく世界への混乱した影響を前にして、胸が押しつぶされるような日々です。それに加えて未だコロナの影は拭い去れません。

教会として、キリスト者として、奉獻生活者として、共同体として、どう生きるべきか、何ができるのか小さな頭で思いめぐらしても空回りするばかりです。

つい、キリストを生きることを頭で、理論として考え抜く癖の限界を思い知らされる日々です。

こうした中で、教皇フランシスコの力強いお言葉が響いてきます。

「ある聖人が言っています。『キリスト教は、信じるべき真理、守るべき法規、禁止事項の一そろいではありません。そうなったら不快です。キリスト教とは、わたしのことをあれほどまでに愛してくださり、わたしに愛を求めておられる、あのかたのことです。キリスト教とはキリストのことなのです』。

(『キリストは生きている』156)

「このかたは生きている——。これはたびたび思い浮かべなければならないことです。わたしたちにはイエス・キリストを昔いた、見習うべき人物として、過去の記念として、二千年前にわたしたちを救ったかたとして、ただそれだけの人物としてしまう危険があるからです。そうしたことは、何の役にも立ちません。わたしたちは変えられないまま、解放されることもありません。ご自分のもたらす恵みでわたしたちを満たしてくださるかた、わたしたちを解放してくださるかた、いやしてくださるかた、そのかたは生きているのです。」(同124)

この混乱と悲慘の世界の現実の中に、ただ独り取り残されている錯覚から抜け出して、世界の悲慘を担って歩みつづける〈生きておられる主ご自身〉に結ばれている自らに立ち帰ることこそが現実なのです。

(Fr. 中川博道 o. c. d.)

